

平成 2 5 年度
横浜市立高等学校
及び
南高等学校附属中学校
自己評価書

横浜市立南高等学校
南高等学校附属中学校

< 学校情報 >

1 課程・学科 単位制及び学年制による全日制普通科

2 学校長 鈴木 英夫 (平成25年4月1日現在 在職1年目)

3 学校教育目標

- 学びへの飽くなき探求心の育成
- 自ら考え、自ら行動する力の育成
- 未来を切りひらく力の育成

4 教育方針

- 学力の充実 学び続ける態度の育成
- 豊かな心・健康な身体・生きる力の育成
- 進路ガイダンスの充実
- 積極的生徒指導と教育相談

5 教職員数 (平成25年12月1日現在)

学校長 1 校長代理 1 副校長 2 事務長 1
教諭 49 (男 26、女 23) 養護教諭 2
実習助手 2 事務職員 3 技能職員 4
A E T 1 非常勤講師 5 管理員 4

6 生徒在籍数 (平成25年12月1日現在)

年次 (学年)	学級数	男子	女子	合計
1	5	105	92	197
2	5	85	112	197
3	8	132	187	319
4				
合計	18			

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		60	60	100%
生徒	1年	197	194	98.4%
	2年	197	194	98.4%
	3年	319	299	94.0%
	4年			.%
	合計	713	687	96.4%
保護者		713	570	80.0%

8 自己評価実施日

教職員	平成25年10月20日～平成25年11月2日
生徒	平成25年11月5日～平成25年11月11日
保護者	平成25年11月5日～平成25年11月11日
地域	平成25年11月22日～平成25年12月17日

9 集計・分析期間

平成25年10月22日～平成26年1月21日

10 自己評価書の公表方法・時期

平成26年5月下旬までに、HP上で公表する。

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

「 特色ある高校づくりのための使命 」

- 幅広い年齢集団で行われる教育活動により人間性を涵養する学校
- 質の高い主体的な学習活動を展開して、より高い学力を育む学校
- 他を思いやる豊かな心を育み、将来のリーダーとなる素養を育成する学校

■特色ある学校づくりの推進状況

(関連アンケート番号：生徒-2, 3, 4, 5、生徒授業評価-全項目、保護者学校評価-1, 2, 4, 6, 8、地域-1, 2, 7, 8, 9、教職員-1, 2, 3, 4, 5, 6)
教職員、生徒、保護者)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫化、6年間での教育活動を念頭におき、教育課程を組み直す。 ・進学指導の重点を念頭に置き、朝学習や長期休業中の補習を強化する。 ・職員の外部研修に中学生を含めた行事を行い、他を思いやる心や、リーダー性の育成を図る。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・61期生の教育課程を編制し、週時間を33とした。新しい教育課程では、全員が共通で学習する科目を増加させ、より高い進路実現を図れるようにした。これ以降の教育課程も同様に編制し、中高6年間での完成形の原型を示すことができた。 ・朝学習や補習に参加する生徒の割合が増加し、学校で行う学習活動にプラスになった。 ・中学生まで含めた行事を行い、よりリーダー性が発揮されるようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在中学生が2年生までで、来年6年生までそろい、形上は6年間の生徒がそろそろ初年度になる。南高校の施設が充実していても、中学校の技術室が工芸室(美術室)と兼用になっていたり、音楽室が1つしかなく施設が足りなくなる予想があり、早急な対応が必要になる。 ・6年間の教育を考えれば、3年目(中3)～5年目(高2)が中だるみの防止や、中学生のリーダーをどのように育てるかなど今後とも話し合いを続ける必要がある。 ・学校行事で、体育的な活動では高校生徒と中学生の体力・体格差が大きく、同一実施など現状の内容の問題点もある。 ・今後外進生1クラスを含めた学習や学校づくりを検討する必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・第2LL教室の整備など施設面の拡充も進んでいるので、計画的に施設面を充実させていく。 ・6年間の学習内容や行事などをさらに検討し確定させる。 ・年間予定を検討し直し、行事の内容や実施時期など精選も含めた話し合いをはじめ。

2 教育活動の状況

■ 学習に関する状況

(関連アンケート番号：生徒-1, 3, 9, 10, 11、生徒授業評価-1, 2, 3、保護者-1, 2, 3, 4, 5、地域-1, 2, 7, 8, 9、教職員-1, 2, 3, 4, 5, 6)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路ガイダンス、進路相談を行い、生徒の進路に対する意識を高めた。また、生徒の希望進路実現のための手段として模擬試験、夏期講習、冬期講習、サテライト講座、センター対策トレーニング、学校別説明会、分野別説明会などを実施した。 ・ 進路ガイダンス、進路相談の実施。学校見学、オープンキャンパスに関する情報を生徒に提供することにより、生徒の上級学校に対する意識を高めた。 ・ 3年生は年6回の模擬試験、1、2年生は年2回の模擬試験、年2回のスタディーサポートを実施し、そのデータを進路相談等に利用した。 ・ 例年各学年、年次で教員による保護者進路説明会を実施しているが、今年度からは河合塾の講師による保護者進路説明会も実施した。また、三者面談においても、模擬試験のデータを活用した受験指導、学習指導の徹底を図った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の進路に対する意識、興味、関心、知識を高める事ができた。 ・ 3年生については、模擬試験のデータを受験指導に活用し、受験校決定などに役立てた。1、2年生については、模擬試験、スタディーサポートのデータを使い学習習慣の定着、学習計画の作成などに利用した。 ・ 保護者に対して的確な進路情報を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路ガイダンス、進路相談の内容を生徒が強い関心を持ち、満足できる内容に改善する必要がある。また、生徒の学習習慣の定着、学習意欲の向上にむけてさらなる手段を検討する必要がある。 ・ 進路ガイダンス、進路相談の内容を今年以上に生徒が関心を持ち、満足できる内容にする必要がある。 ・ 模擬試験のデータを進路相談等にうまく利用できていない部分もあるので、いかにデータを有効活用するかさらに検討する必要がある。 ・ 保護者進路説明会、三者面談において保護者が強い関心を持ち、満足できる内容にするために、さらに内容等の改善が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路ガイダンスについては、教員だけでなく、専門業者を導入した進路ガイダンスを充実させる。進路相談については、模擬試験のデータのさらなる有効活用を進め、進路相談にあたっての教員のための学習会の内容の向上を図る。 ・ 教員だけでなく、専門業者による進路ガイダンスの実施。進路ガイダンスの実施回数、実施時期、内容について検討を進める。 ・ 模擬試験の成績管理システムをKナビに一本化し、全ての教員が成績管理システムを使いこなせるようにサポート体制を整える。また、教員の模擬試験分析会の実施時期、内容について検討する。 ・ 3年間一貫した進路指導を行うために、各学年、年次の必要に応じた適切な時期に適切な内容の保護者進路説明会を計画的に実施する。

■ 生徒会活動の状況

(関連アンケート番号：教職員7、生徒3、保護者4)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動や委員会活動を生徒が主体的に取り組めるよう指導する。 ・ 時間が少ない中でも活発な行事と生徒会活動を維持できるよう取り組ませる。 ・ 行事に関して、近隣の方へのあいさつ文の内容には具体的な展示の案内を盛り込みながら早目に出すことや、ポスターを地域に掲示するなど宣伝活動に力を入れ、来場者への「ホスピタリティー」の向上を目標に活動した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒委員会を中高合同で行う2年目となったが、中高の連携を取りながら、委員会に所属している生徒を中心に生徒が主体的に、行事の準備、運営に取り組めた。 ・ 文化祭に、多くの方が足を運んでくださった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会に入っていない生徒を、どのように主体的に取り組ませるか、更に工夫が必要である。 ・ 活動時間が少なくなっているので、活動を保障できるように工夫が必要である。 ・ 文化祭や地域貢献の内容をもっと、地域の方にも知っていただくことが必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事の運営に委員会の所属している生徒だけでなく、全員が参加してできるように、準備時間の確保とLHRの計画的な実施をする。 ・ 更に質の高い生徒会活動を目指し、改善できるところは更に工夫する。 ・ ホームページなども利用し、各行事の内容をアピールする。

3 学校経営の状況

■教育活動全般についての状況

(関連アンケート番号：生徒-5, 6, 7, 10, 13、生徒授業評価-9、保護者-6, 7, 8, 9, 10、地域-6, 7, 8, 9、教職員の評価-13-27)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高6年間の教育課程や学習活動の構築に向けての取り組み。 ・ それぞれの学年の授業編制の工夫と、一部少人数化への取り組み。 ・ 進路指導の充実に向けての取り組み。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程の編纂が進み、各教科が中高連携して学習内容を検討することができた。 ・ 61期生(H26年度入学生)や外進生1クラス募集の始まる62期生のクラス編制や検討を進めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程が、新教育課程導入、中高一貫の過渡期、中高一貫化と短期間で変更が進み、クラス編制や授業編制を検討することがなかなかできないことが課題である。 ・ 来年度から週時間が増加するので、職員の会議時間や生徒の委員会・部活動の時間が設定しにくいことが課題である。 ・ 施設面の課題も多く、学校内だけでは処理できない部分も多くある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程に関して細かい内容まで話し合う。 ・ 施設に関して要望をとりまとめる。

■教職員の研修及び成績管理の状況

(関連アンケート番号：教職員の評価-5, 10, 18)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業力向上に向けて、外部機関を利用した研修をすすめ、一部費用の補助も行う。 ・ 生徒の成績管理を一括して行えるよう、システムの導入に関して検討を行う。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績管理システムの導入が決まり、今年度末から使用をはじめることとした。 ・ 職員の外部機関利用研修は若干名利用した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期休業中に補習なども重点化して行われるため、職員が研修できる時間が少なく、外部機関での研修などに参加しづらいことが課題である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成26年度に成績システムの導入を図る。 ・ 職員が研修できるよう、長期休業中に登校禁止期間を設けるなど工夫を考える。

平成25年度

学校評価アンケートのまとめ

1. 生徒による学校評価
2. 生徒による授業評価
3. 保護者による学校評価
4. 教職員による学校評価
5. 地域による学校評価

横浜市立南高等学校

1. 生徒による学校評価

○ 評価指標と全体のデータ

項目	評価の指標	そう	やや	あまり	思わない	目標70%
教育活動等	1 希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている。	286	314	61	26	87.3%
	2 学級で良好な人間関係を築いている。	357	278	41	11	92.4%
	3 生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている	247	272	116	52	75.5%
	4 先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	192	379	85	31	83.1%
	5 南高校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	182	381	101	21	82.2%
	6 南高校は進路説明会等で進路に関する情報を十分に提供している。	221	380	66	20	87.5%
	7 南高校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	162	387	112	23	80.3%
	8 南高校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	220	358	93	14	84.4%
学校生活等	9 南高校の生徒であることを誇りに思っている	337	278	53	18	89.7%
	10 南高校の施設・設備面の教育環境が充実している。	419	230	31	6	94.6%
	11 南高校は生徒の個人情報適切に管理している。	294	338	42	10	92.4%
	12 自分は防災時の避難経路を把握している。	198	313	115	60	74.5%
	13 南高校は学校ホームページや学年便りなどを活用し、自分や保護者の必要な情報を提供している。	184	375	96	29	81.7%

○年次・学年ごとのデータ

1年生のデータ

	質問	そう	やや	あまり	思わない	目標70%
教育活動等	1	68	106	18	2	89.7%
	2	89	84	16	5	89.2%
	3	66	76	33	19	73.2%
	4	54	106	24	10	82.5%
	5	48	111	28	7	82.0%
	6	63	116	13	2	92.3%
	7	45	101	38	8	76.0%
	8	70	97	23	3	86.5%
学校生活等	9	96	71	20	7	86.1%
	10	130	55	8	1	95.4%
	11	95	83	11	3	92.7%
	12	48	76	41	29	63.9%
	13	52	101	31	9	79.3%

2年生のデータ

	質問	そう	やや	あまり	思わない	目標70%
教育活動等	1	100	80	10	4	92.8%
	2	111	71	10	2	93.8%
	3	87	67	32	8	79.4%
	4	70	103	17	4	89.2%
	5	61	96	34	3	80.9%
	6	69	102	16	7	88.1%
	7	54	112	24	4	85.6%
	8	68	96	28	2	84.5%
学校生活等	9	108	69	14	3	91.2%
	10	122	62	9	1	94.8%
	11	92	87	12	3	92.3%
	12	60	83	36	15	73.7%
	13	59	106	25	4	85.1%

3年生のデータ

	質問	そう	やや	あまり	思わない	目標70%
教育活動等	1	118	128	33	20	82.3%
	2	157	123	15	4	93.6%
	3	94	129	51	25	74.6%
	4	68	170	44	17	79.6%
	5	73	174	39	11	83.2%
	6	89	162	37	11	83.9%
	7	63	174	50	11	79.5%
	8	82	165	42	9	82.9%
学校生活等	9	133	138	19	8	90.9%
	10	167	113	14	4	94.0%
	11	107	168	19	4	92.3%
	12	90	154	38	16	81.9%
	13	73	168	40	16	81.1%

※今年度指標が大きく変化したので、経年変化は示していない。

3. 生徒による授業評価

○授業評価に関して

基本的な質問項目

◎ **評価項目1-自分自身について**

- 1 予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。
- 2 授業で学習した内容はだいたい理解または習得できている。
- 3 主体的・積極的に授業に参加している。

◎ **評価項目2-授業や先生について**

- 4 生徒に学力を身につけさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。
- 5 学習の狙いがはっきりしていて、内容の組み立ても適切である。
- 6 板書、プリント、教材の使い方はわかりやすいですか。
- 7 生徒に公平に接し、理解しようとしていますか。
- 8 評価方法や評価基準についての説明は十分行われた。
- 9 授業の年間計画が説明され、授業もその内容に準じて行われている。
- 10 発問や説明が適切でわかりやすい。

各教科・科目により学習の状況が異なっているので、問の内容が異なる教科もある。

- 芸術科
- 1 授業に必要な用具を準備して意欲的に学習に取り組んでいる。
 - 4 生徒に芸術的な技能と完成を高めさせようと授業に熱心に取り組んでいる。

保健体育科の体育

- 1 授業に必要な用具の準備などをして意欲的に学習に取り組んでいる。
- 4 生徒に技術や体力を身につけさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。
- 6 削除し、他の項目を1つずつ繰り上げ、9問とした。

- 家庭科
- 1 授業に必要な用具を準備して意欲的に学習に取り組んでいる。
 - 3 主体的・積極的に取り組み、課題を提出できた。

○ 国語科

1年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	31	76	55	25	187	57.2%
設問2	29	98	47	13	187	67.9%
設問3	61	85	33	7	186	78.5%
設問4	52	94	30	10	186	78.5%
設問5	73	75	30	9	187	79.1%
設問6	55	86	39	7	187	75.4%
設問7	60	78	35	14	187	73.8%
設問8	93	60	25	8	186	82.3%
設問9	89	76	20	2	187	88.2%
設問10	58	76	34	17	185	72.4%

2年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	33	126	148	71	378	43.0%
設問2	51	192	109	29	373	65.1%
設問3	73	182	100	26	372	68.5%
設問4	133	185	49	14	372	85.5%
設問5	173	145	49	14	373	85.3%
設問6	133	170	58	20	373	81.2%
設問7	126	149	73	33	373	73.7%
設問8	187	140	41	13	372	87.9%
設問9	169	167	33	11	373	90.1%
設問10	127	167	62	21	370	79.5%

3年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	73	249	230	97	649	57.2%
設問2	112	363	142	41	658	67.9%
設問3	111	305	190	51	657	78.5%
設問4	188	329	113	28	658	78.5%
設問5	233	309	94	21	657	79.1%
設問6	207	328	96	26	657	75.4%
設問7	213	292	116	36	657	73.8%
設問8	228	307	93	29	657	82.3%
設問9	219	334	79	24	656	88.2%
設問10	196	303	101	41	641	72.4%

科目 人数
国語総合 197

科目 人数
現代文 197
古典 197

科目 人数
現代文α 83
現代文β 236
古典(4) 150
古典(2) 42
現代評論研究 174
国語表現 9

- (a) 取り組み… 昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。
- ・ 家庭学習のための意味調べプリント、漢字や古典文法小テスト等の定期的な実施、ノートや古典問題集等提出、などにより、予習・復習を習慣付け、学習意欲を喚起させる。
 - ・ 授業内容の精選と家庭学習の促進をはかる。
 - ・ 年度当初・学期末等に評価方法や年間計画の説明を丁寧に各教員が行った。
- (b) 成果… その取り組みに当たっての成果。
- ・ 設問1に関して、十分な成果はあがっているとはいえない。しかしながら授業中の学習の集中力は高まっている。
 - ・ 残りの設問に関しては数値が目標値を上回っているため、今後とも
- (c) 課題… 生徒の評価から考えられる課題。
- ・ 家庭学習の習慣を付けさせる。
 - ・ 授業内容の理解度をあげる。
 - ・ 上記の取り組みを継続し、生徒の理解を十分深めていく。
- (d) 改善策… 課題を解決するための改善策。
- ・ 上記の取り組みを継続すると共に、生徒の学習意欲を喚起させる指導を行う。
 - ・ 授業内容の精選とともに、学習内容を定着させるための家庭学習課題等を準備する。
 - ・ 年間計画の説明を適宜行い、生徒に浸透させる。

○ 地歴公民科

1年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	69	146	137	30	375	57.3%
設問2	70	180	114	18	382	65.4%
設問3	133	175	65	7	380	81.1%
設問4	123	192	60	7	382	82.5%
設問5	164	165	46	7	382	86.1%
設問6	149	173	52	8	382	84.3%
設問7	162	146	64	10	382	80.6%
設問8	153	151	59	19	382	79.6%
設問9	168	150	53	11	382	83.2%
設問10	161	155	55	11	382	82.7%

2年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	23	72	68	31	194	49.0%
設問2	33	81	67	13	194	58.8%
設問3	54	97	39	4	194	77.8%
設問4	68	101	23	2	194	87.1%
設問5	98	81	15	0	194	92.3%
設問6	90	82	21	1	194	88.7%
設問7	96	74	23	1	194	87.6%
設問8	100	78	15	1	194	91.8%
設問9	102	77	14	0	193	92.7%
設問10	96	74	16	3	189	89.9%

3年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	69	186	150	102	507	50.3%
設問2	86	239	131	51	507	64.1%
設問3	91	238	132	46	507	64.9%
設問4	158	252	76	21	507	80.9%
設問5	213	223	60	11	507	86.0%
設問6	185	247	61	14	507	85.2%
設問7	169	244	73	21	507	81.5%
設問8	189	245	57	16	507	85.6%
設問9	188	259	45	15	507	88.2%
設問10	191	233	59	18	501	84.6%

科目 人数
世界史A 197
現代社会 197

科目 人数
日本史A 98
日本史B 99
政治経済 29

科目 人数
倫理 319
日本史発展 108
世界史発展 20
世界史B 24
政治経済 73

- (a) 取り組み… 昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。
- ・「分かる授業」をめざすとともに、「板書・プリント」等、見せるモノへの配慮と工夫し、生徒の学習意欲をより継続的に維持・向上させる取り組みを行った。
 - ・教員相互の情報交換・修養・研鑽により、積極的に「よいもの」を取り入れる努力した。
 - ・課題であった質問項目7・8に関する取り組みとしては、年度当初に、「年間計画」「評価方法」をより具体的に提示し、定期試験前などの機会に再度説明をした。
- (b) 成果… その取り組みに当たっての成果。
- ・質問項目4以下の授業・教員に関するものについては、3年については昨年に引き続き高い評価を維持できた。1・2年についても大幅に改善がみられた。特に課題であった評価方法・基準および年間計画の説明に関して改善された。
- (c) 課題… 生徒の評価から考えられる課題。
- ・全体的に自分自身に対する項目に関しては、評価が低い。特に項目1, 2が低い。
- (d) 改善策… 課題を解決するための改善策。
- ・普段から学習する習慣を身につけさせるように指導する必要がある。日常の授業や試験などに達成感をもたせられるような工夫が必要がある。

○ 数学科

1年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	40	81	58	15	194	62.4%
設問2	33	97	55	9	194	67.0%
設問3	60	86	43	5	194	75.3%
設問4	68	89	26	10	193	81.3%
設問5	83	69	27	15	194	78.4%
設問6	78	81	24	11	194	82.0%
設問7	82	74	25	13	194	80.4%
設問8	91	65	22	16	194	80.4%
設問9	92	76	19	7	194	86.6%
設問10	79	64	27	23	193	74.1%

2年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	24	71	78	23	196	48.5%
設問2	31	89	58	18	196	61.2%
設問3	39	88	54	15	196	64.8%
設問4	71	88	31	6	196	81.1%
設問5	76	81	31	8	196	80.1%
設問6	69	84	33	10	196	78.1%
設問7	59	90	34	13	196	76.0%
設問8	76	82	31	7	196	80.6%
設問9	83	96	14	3	196	91.3%
設問10	66	74	33	23	196	71.4%

3年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	36	83	61	14	194	61.3%
設問2	38	111	36	10	195	76.4%
設問3	47	102	38	7	194	76.8%
設問4	78	97	17	3	195	89.7%
設問5	86	83	18	8	195	86.7%
設問6	75	93	22	5	195	86.2%
設問7	81	87	19	8	195	86.2%
設問8	83	83	19	10	195	85.1%
設問9	81	94	16	4	195	89.7%
設問10	82	77	27	7	193	82.4%

科目 人数
数学I・A 197

科目 人数
数学Ⅱ 72
数学Ⅱ・B 126

科目 人数
数学Ⅲ・C 71
数学応用A 75
数学応用B 56

- (a) 取り組み… 昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。
- ・はぎとり式の問題集のみではなく、定期試験ごとにテスト直しに取り組みせ、細かく振り返えらせた。
 - ・問題集と教科書の対応表をつくり、難易度や類題を分かりやすくし、学習に活用させた。
 - ・年間計画・評価基準を詳しく説明した。
- (b) 成果… その取り組みに当たっての成果。
- ・毎日、継続して勉強する習慣がついた。
 - ・問題集の対応表を配ることで、早くからテスト勉強に取り組む生徒が増えた。
 - ・年間計画・評価基準が、より生徒に伝わるようになった。
- (c) 課題… 生徒の評価から考えられる課題。
- ・より一層の家庭における学習習慣の確立を図るための工夫が必要である。
 - ・予習の取り組みを、さらに充実させ積極的に行わせること。
- (d) 改善策… 課題を解決するための改善策。
- ・限られた時間を有効に使えるように、学習の効率化の習慣を定着させる。
 - ・自己の振り返りをもとに、弱点や苦手部分の改善につなげ、基礎・基本の充実をはかる。

○理科

1年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	40	81	58	15	194	62.4%
設問2	33	97	55	9	194	67.0%
設問3	60	86	43	5	194	75.3%
設問4	68	89	26	10	193	81.3%
設問5	83	69	27	15	194	78.4%
設問6	78	81	24	11	194	82.0%
設問7	82	74	25	13	194	80.4%
設問8	91	65	22	16	194	80.4%
設問9	92	76	19	7	194	86.6%
設問10	79	64	27	23	193	74.1%

2年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	56	146	221	82	506	39.9%
設問2	70	255	155	25	505	64.4%
設問3	105	232	145	19	502	67.1%
設問4	142	242	105	16	505	76.0%
設問5	192	225	78	9	505	82.6%
設問6	165	261	70	9	505	84.4%
設問7	177	227	80	21	505	80.0%
設問8	190	217	77	21	505	80.6%
設問9	202	242	50	11	505	87.9%
設問10	184	215	84	18	501	79.6%

3年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	50	121	72	26	272	62.9%
設問2	40	155	62	12	272	71.7%
設問3	60	138	62	9	272	72.8%
設問4	88	156	18	7	272	89.7%
設問5	120	122	22	5	272	89.0%
設問6	110	131	24	4	272	88.6%
設問7	101	133	27	8	272	86.0%
設問8	100	136	24	8	271	87.1%
設問9	121	131	12	5	272	92.6%
設問10	106	120	30	13	272	83.1%

科目 人数
化学基礎 197

科目 人数
物理基礎 77
生物基礎 187
地学基礎 130
化学探究 87

科目 人数 科目 人数
物理Ⅱ 60 化学基礎 19
物理探究 41 生物Ⅱ 38
化学Ⅱ 55 生物応用 19
化学応用 14 生物基礎 31

- (a) 取り組み… 昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。
- ・ 進度の調整・授業内容の確認・評価の基準などにおいて教科内の連携を図った。
 - ・ 50 インチ画面とコンピューターを利用して、実験の映像、パワーポイント、シミュレーションなど視覚的な教材を提示した。
 - ・ 家庭学習の課題や小テストを効果的に活用して、家庭学習の習慣を身につけさせるように努めた。
 - ・ 科目や学年ごとに共通に野外巡検、実験、観察、日大理工学部研究室訪問、JAXA 相模原キャンパス・筑波宇宙センター訪問等を行って、興味関心を喚起し学力の向上に取り組んだ。
- (b) 成果… その取り組みに当たっての成果。
- ・ 生徒の授業評価の数値は、前年度と比較して全体的に向上した。
 - ・ 視覚教材、コンピューターの利用、実験・観察、板書の工夫等により少しでも分かりやすい授業を行うことができた。
 - ・ 野外巡検、実験、観察、日大理工学部研究室訪問、JAXA 相模原キャンパス・筑波宇宙センター訪問等により、興味関心を高め、意識づけに効果があった。
 - ・ 自分の進路に向き合う生徒が増えた。
- (c) 課題… 生徒の評価から考えられる課題。
- ・ 生徒の授業評価の数値では、家庭学習の定着は向上しているが、今後も低学年からしっかりと学習習慣を身につけさせていく必要がある。
 - ・ 必修授業での学力差や学習意欲に差が大きい。
 - ・ 実験室の設備、電子黒板、生徒用パソコン等が不足している。
 - ・ 附属中学校の理科実験室と準備室がなく、高校の実験室・準備室に附属中学の備品・教材を保管するにはすでに過飽和状態になっている。
- (d) 改善策… 課題を解決するための改善策。
- ・ 家庭学習の課題や小テスト、長期休業中の補習などを充実させる。
 - ・ 家庭学習の課題が同時期に過重に重ならないように教科間で調整する。
 - ・ 電子黒板、生徒用パソコン等を充実させ、それらを積極的に利用する。巡検・実験・実習研究施設の訪問などにより、意欲的で主体的な学習態度を養う。
 - ・ 附属中学の理科実験室と準備室の設置を要求していく。

○保健体育
体育

1年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	113	57	17	4	191	89.0%
設問2	96	81	11	3	191	92.7%
設問3	126	56	9	0	191	95.3%
設問4	117	65	8	1	191	95.3%
設問5	127	63	1	0	191	99.5%
設問6	96	88	7	0	191	96.3%
設問7	99	68	16	8	191	87.4%
設問8	98	75	14	4	191	90.6%
設問9	104	73	11	2	190	93.2%

2年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	112	56	18	5	191	88.0%
設問2	98	69	20	4	191	87.4%
設問3	124	52	10	4	190	92.6%
設問4	125	60	5	1	191	96.9%
設問5	126	56	8	1	191	95.3%
設問6	116	64	11	0	191	94.2%
設問7	125	52	10	4	191	92.7%
設問8	117	65	8	1	191	95.3%
設問9	114	67	9	0	190	95.3%

3年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	232	119	21	4	376	93.4%
設問2	211	138	23	4	376	92.8%
設問3	244	111	16	5	376	94.4%
設問4	236	127	9	4	376	96.5%
設問5	246	113	10	7	376	95.5%
設問6	230	124	17	5	376	94.1%
設問7	240	109	20	7	376	92.8%
設問8	242	111	18	5	376	93.9%
設問9	234	120	15	7	376	94.1%

科目 人数
体育 197

科目 人数
体育 197
スポーツⅡ 19

科目 人数
体育 319
スポーツⅡ 62
エキスパート 10

保健

1年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	32	53	67	38	190	44.7%
設問2	42	100	46	1	189	75.1%
設問3	71	82	34	3	190	80.5%
設問4	71	92	22	4	189	86.2%
設問5	94	78	16	2	190	90.5%
設問6	87	88	12	3	190	92.1%
設問7	86	83	17	4	190	88.9%
設問8	93	77	17	3	190	89.5%
設問9	88	86	12	3	189	92.1%
設問10	80	89	18	3	190	88.9%

2年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	31	58	59	43	191	46.6%
設問2	46	97	38	10	191	74.9%
設問3	64	79	34	14	191	74.9%
設問4	83	79	20	9	191	84.8%
設問5	91	76	18	6	191	87.4%
設問6	84	78	20	9	191	84.8%
設問7	84	76	24	7	191	83.8%
設問8	87	80	14	10	191	87.4%
設問9	87	81	13	10	191	88.0%
設問10	90	76	16	8	190	87.4%

科目 人数
保健 197

科目 人数
保健 197

- (a) 取り組み…昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。
- ・1年生…各種目の基礎・基本を学び定着させる。
 - ・2年生…前期は各種目の基礎・基本の定着を図り、後期は自らの興味・関心で種目を選択しより活発な活動をする。
 - ・3年生…種目選択制授業で生涯スポーツに繋げる。
- (b) 成果…その取り組みに当たっての成果。
- ・各学年・年次とも授業に取り組む姿勢、学習内容の習得は良好である。
- (c) 課題…生徒の評価から考えられる課題。
- ・授業評価から2年次の「授業で学習した内容はだいたい理解、または習得している」の「そう思う」「ややそう思う」と回答したのが、他の項目と比べ87.4%と、そう高くないこと。
- (d) 改善策…課題を解決するための改善策。
- ・学習カードなどを更に有効に活用し知識の理解と技能の習得に努める。

○ 芸術

1年生

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	130	48	10	3	191	93.2%
設問2	100	78	12	1	191	93.2%
設問3	120	63	6	2	191	95.8%
設問4	123	62	6	0	191	96.9%
設問5	121	63	7	0	191	96.3%
設問6	115	69	6	0	190	96.8%
設問7	101	80	9	0	190	95.3%
設問8	127	55	7	2	191	95.3%
設問9	120	61	10	0	191	94.8%
設問10	112	60	16	2	190	90.5%

科目	人数
音楽	73
美術	49
書道	75

2年生

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	2	1	0	0	3	100.0%
設問2	2	1	0	0	3	100.0%
設問3	3	0	0	0	3	100.0%
設問4	2	1	0	0	3	100.0%
設問5	2	1	0	0	3	100.0%
設問6	3	0	0	0	3	100.0%
設問7	2	0	1	0	3	66.7%
設問8	3	0	0	0	3	100.0%
設問9	3	0	0	0	3	100.0%
設問10	3	0	0	0	3	100.0%

科目	人数
美術	3

3年生

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	60	35	2	2	99	96.0%
設問2	59	37	3	0	99	97.0%
設問3	67	27	5	0	99	94.9%
設問4	71	25	3	0	99	97.0%
設問5	69	25	5	0	99	94.9%
設問6	63	30	6	0	99	93.9%
設問7	60	33	4	2	99	93.9%
設問8	66	27	2	4	99	93.9%
設問9	75	21	1	2	99	97.0%
設問10	66	25	5	1	97	93.8%

科目	人数	科目	人数
演奏法 α	7	美術探究	14
演奏法 β	8	漢字の書	5
音楽探究	53	実用の書	16

- (a) 取り組み… 昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。
- ・ 年度初めの授業において年間計画とともに評価基準についても口頭ではなく、具体的にプリントを作成して丁寧に説明をすることを各教科で確認して行った。また、それだけでは不十分であるため、各単元においても評価の基準を明確に伝えること事各科共通理解の上で取り組んだ。
- (b) 成果… その取り組みに当たっての成果。
- ・ 評価の基準を単元ごとに明確に示したことで、生徒に浸透させる事が昨年よりできていたように思う。
- (c) 課題… 生徒の評価から考えられる課題。
- ・ 生徒が芸術科目に対して関心意欲が高いという点が明確に出ている。それを受けて授業内容ががより生徒達の期待に答えられるように教員がに励み、教科指導の充実を図っていかなければならないと痛感した。
- (d) 改善策… 課題を解決するための改善策。
- ・ 授業がマンネリ化することがないように、教材の精査や技能を教えるだけでなく、校内のみならず、他校での取り組み等の収集や、感性を高める指導の研究研鑽を積むよう努力していきたい。

○外国語科(英語科)

1年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	113	196	57	15	381	81.1%
設問2	95	199	78	9	381	77.2%
設問3	154	176	43	7	380	86.8%
設問4	146	189	38	8	381	87.9%
設問5	208	140	28	5	381	91.3%
設問6	164	186	26	5	381	91.9%
設問7	164	169	40	8	381	87.4%
設問8	202	145	28	6	381	91.1%
設問9	205	150	20	6	381	93.2%
設問10	175	161	36	9	381	88.2%

2年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	51	187	133	29	400	59.5%
設問2	67	207	112	14	400	68.5%
設問3	79	212	97	12	400	72.8%
設問4	103	211	67	19	400	78.5%
設問5	147	214	34	5	400	90.3%
設問6	100	192	87	20	399	73.2%
設問7	93	165	117	25	400	64.5%
設問8	151	190	46	13	400	85.3%
設問9	133	218	41	8	400	87.8%
設問10	102	196	83	19	400	74.5%

3年生 全体

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	108	257	195	77	637	57.3%
設問2	92	357	155	33	637	70.5%
設問3	131	330	140	35	636	72.5%
設問4	199	338	77	23	637	84.3%
設問5	287	275	54	21	637	88.2%
設問6	215	328	72	22	637	85.2%
設問7	221	312	75	29	637	83.7%
設問8	266	273	62	36	637	84.6%
設問9	252	320	39	24	635	90.1%
設問10	223	303	72	33	631	83.4%

科目	人数
コミュⅠ	197
英語表現Ⅰ	197

科目	人数
英語Ⅱ	197
ライティング	197
生活英語	19

科目	人数	科目	人数
Rα	217	Wβ	119
Rβ	102	英語表現	20
Wα	188	時事英語	19

- (a) 取り組み…昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。
- ・1学年では前期の生徒の様子を見て、復習をこまめにさせるよう教員が確認する機会を多く持った。
 - ・各学年、年次でもプリント等で授業の理解の助けとなるよう工夫をした。
- (b) 成果…その取り組みに当たっての成果。
- ・予習復習など、家庭学習に対しての取り組みはあまりよくなかったが、授業中の活動では積極的な姿勢を見せている生徒が多く見られた。
- (c) 課題…生徒の評価から考えられる課題。
- ・与えられたものに対しては真面目に取り組む生徒が多いように見受けられるが、自ら学習するという姿勢や、家庭学習の習慣を身に付けさせることが必要である。
- (d) 改善策…課題を解決するための改善策。
- ・家庭学習の定着を図るため、課題を出す等の取り組みを続けていく。その際に、自立学習ができるように課題の出し方にも工夫をする。

○家庭科

1年生

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	91	70	22	7	190	84.7%
設問2	29	92	58	11	190	63.7%
設問3	69	96	21	4	190	86.8%
設問4	89	92	7	2	190	95.3%
設問5	68	97	20	4	189	87.3%
設問6	71	97	20	2	190	88.4%
設問7	63	89	32	6	190	80.0%
設問8	91	77	19	3	190	88.4%
設問9	92	82	15	1	190	91.6%
設問10	69	86	25	9	189	82.0%

科目 人数
家庭基礎 197

2年生

家庭生活	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	8	4	0	0	12	100.0%
設問2	5	8	0	0	13	100.0%
設問3	11	2	0	0	13	100.0%
設問4	12	1	0	0	13	100.0%
設問5	11	2	0	0	13	100.0%
設問6	9	4	0	0	13	100.0%
設問7	8	5	0	0	13	100.0%
設問8	13	0	0	0	13	100.0%
設問9	12	1	0	0	13	100.0%
設問10	12	1	0	0	13	100.0%

科目 人数
家庭生活 13

3年生

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	31	24	3	2	60	91.7%
設問2	27	30	2	1	60	95.0%
設問3	28	24	6	2	60	86.7%
設問4	41	17	0	2	60	96.7%
設問5	37	21	1	1	60	96.7%
設問6	36	22	2	0	60	96.7%
設問7	31	24	4	1	60	91.7%
設問8	36	22	0	2	60	96.7%
設問9	35	23	1	1	60	96.7%
設問10	34	21	2	2	59	93.2%

科目 人数
ファッション 10
フード 33
看護・保育 23

- (a) 取り組み… 昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。
- すべての科目で、評価基準・評価方法について詳細に説明をすることを実施した。
 - 提出物の返却時にはその都度、採点方法について分かりやすく説明をして生徒が理解できるように努めた。
- (b) 成果… その取り組みに当たっての成果。
- 設問9の回答について昨年度は1年生で78.9%であったが、今年は91.6%と割合が増え、提出物等の評価について適切で納得できると考える生徒が増えたことが分かる。
- (c) 課題… 生徒の評価から考えられる課題。
- 1年生の設問2について63.7%だったため、学習した内容を理解できて身に付いていると考える生徒が少ないことが分かる。生徒が授業の内容を理解していないと考える原因には定期試験の点数が上がらない、家庭科のテスト勉強の方法が分からないなどの理由が考えられる。学習したことを理解できた実感できるように授業方法を改善していくことが今後の課題である。
- (d) 改善策… 課題を解決するための改善策。
- 授業の最初に前回の授業の復習をしたり、既習の学習内容と関連させて説明したりして、授業内容の振り返りを頻繁に行う。
 - 定期テスト前に問題を解くなどで復習を行い、テスト勉強への動機付けを行うことである。
- 以上の方法で、学習内容を理解し、身に付いたと実感する生徒が増えるよう、改善していきたい。

○情報科

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	34	59	48	48	189	49.2%
設問2	27	70	67	25	189	51.3%
設問3	57	87	39	6	189	76.2%
設問4	57	103	23	6	189	84.7%
設問5	43	86	43	17	189	68.3%
設問6	40	102	40	7	189	75.1%
設問7	37	82	50	20	189	63.0%
設問8	36	98	36	18	188	71.3%
設問9	57	90	32	10	189	77.8%
設問10	38	85	40	26	189	65.1%

1年科目 人数
情報基礎 197

- (a) 取り組み… 昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。
- ・教科「情報」では情報モラルの育成を柱としている。その展開としてプレゼンテーションの題材を情報モラルの中から生徒が自分のテーマとして情報安全を扱うことで、教材そのものの学習を兼ねた授業展開が行え生徒の興味関心を高めた。
 - ・すべての人が情報の送り手と受け手の両方の役割をもつ現状を踏まえ、双方のあらゆる場面において適切な行動をとることができるようになる必要がある。これらを実現させるため附属中学校とで相互の発表を行わせるなどの展開から情報社会に必要なルールや社会的責任について考えることを前提とした情報機器操作に偏りがちな授業を主に「問題解決学習」の展開へと移行を図った。
- (b) 成果… その取り組みに当たっての成果。
- ・こちらが用意したカテゴリーの中から自らがテーマを選び、問題解決のための情報活用（情報の収集・編集・加工・発信）を行わせることで自主的・自発的に学習し成果を上げようと取り組む生徒が多くみられた。
 - ・一方において家庭、中学でのIT環境、取り組みの違いが激しさは増す一方で、大学受験に関係のない強要される必修教科という点が生徒の学習意欲等のモチベーションにつなげられなかった面があると思われる。
- (c) 課題… 生徒の評価から考えられる課題。
- ・教科「情報」では変化を対象とし、情報活用の利便性を享受すると同時に、情報モラルや社会的責任も身につけさせる。そのバランスが大事だという認識を基盤として捉え情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度を育てることに重点を置く指導をいかに強化すべきか。
 - ・必修教科という点を踏まえて、すべての生徒に教科情報のねらい、内容などを正しく認識するように働きかけるにはどのようにしたらよいか。
 - ・情報機器操作に偏りがちな授業を主に「問題解決学習」の展開へと移行を図り、問題解決のための情報活用（情報の収集・整理・加工・発信）の習得という認識を生徒にいかに持たせるか。
- (d) 改善策… 課題を解決するための改善策。
- ・個々の生徒の学習段階に応じた個別指導を強化する。
 - ・授業外でも自学自習ができるように学習内容をわかりやすくするためデジタル教材の開発に努める。
 - ・自己学習能力を高めることをめざし、年度当初や單元ごとに学習到達度目標項目を提示し、個々に学習計画を立てさせる。
 - ・つまづきやすいスキル面の到達度目標項目をチェックリスト化し生徒に自己評価させ、個別指導に活かす。

○教育

合計	1	2	3	4	総数	12の割合
設問1	3	1	2	0	6	66.7%
設問2	4	2	0	0	6	100.0%
設問3	4	2	0	0	6	100.0%
設問4	6	0	0	0	6	100.0%
設問5	5	1	0	0	6	100.0%
設問6	4	2	0	0	6	100.0%
設問7	4	2	0	0	6	100.0%
設問8	5	1	0	0	6	100.0%
設問9	5	1	0	0	6	100.0%
設問10	5	1	0	0	6	100.0%

3年選択 教育基礎 人数6

(a) 取り組み…昨年の改善策をうけて、どのような取り組みを行ってきたか。

- ・他校種との積極的な交流活動。
- ・実体験を伴う活動の重視。

(b) 成果…その取り組みに当たっての成果。

- ・小学生との交流が進み、教育基礎の時間だけでなく、幅広い交流が進んだ。

(c) 課題…生徒の評価から考えられる課題。

- ・評価が十分に高く、今後ともこの活動を続けられればよいが、教科情報の設置が62期生からなくなるので、他校種との交流が滞る事が考えられる。

(d) 改善策…課題を解決するための改善策。

- ・今後の他校種交流について検討を進める必要がある。

4. 保護者による学校評価

○評価指標と全体のデータ

項目	番号	評価指標	そう	やや	あまり	思わない	わからない	目標70%
教育活動等について	1	進学指導重点校として、模擬テストや面談の充実など適切な取り組みをしている。	150	263	102	20	35	77.2%
	2	南高校の教育課程は進路実現に適したものになっている。	130	273	83	20	65	79.6%
	3	お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	358	157	30	10	17	92.8%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、子どもは積極的に参加している。	330	184	36	8	14	92.1%
	5	生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	128	266	89	19	69	78.5%
学校生活等について	6	希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている。	138	274	95	17	48	78.6%
	7	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	87	253	98	15	117	75.1%
	8	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	192	270	53	11	46	87.8%
	9	各種会計報告が適切に行われている。	249	236	21	6	60	94.7%
	10	学校生活の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	143	290	84	18	36	80.9%

○年次・学年ごとのデータ

1年生の保護者のデータ 回収数 190

	質問	そう	やや	あまり	思わない	わからない	目標70%
教育活動等	1	65	76	27	6	14	81.0%
	2	55	86	16	6	26	86.5%
	3	112	51	14	5	7	89.6%
	4	98	61	20	5	5	86.4%
	5	36	90	29	8	26	77.3%
学校生活等	9	57	84	17	6	25	86.0%
	10	29	81	28	5	46	76.9%
	11	71	85	16	2	15	89.7%
	12	77	74	8	0	30	95.0%
	13	35	104	31	5	13	79.4%

2年生の保護者のデータ 回収数 172

	質問	そう	やや	あまり	思わない	わからない	目標70%
教育活動等	1	38	84	32	6	11	76.3%
	2	44	78	22	5	22	81.9%
	3	102	56	4	4	5	95.2%
	4	104	55	5	3	4	95.2%
	5	37	81	28	5	19	78.1%
学校生活等	9	39	80	36	4	12	74.8%
	10	31	74	32	2	31	75.5%
	11	66	69	16	6	14	86.0%
	12	77	68	5	4	17	94.2%
	13	50	82	23	5	11	82.5%

3年生の保護者のデータ 回収数 212

	質問	そう	やや	あまり	思わない	わからない	目標70%
教育活動等	1	47	103	43	8	10	74.6%
	2	31	109	45	9	17	72.2%
	3	144	50	12	1	5	93.7%
	4	128	68	11	0	5	94.7%
	5	55	95	32	6	24	79.8%
学校生活等	9	42	110	42	7	11	75.6%
	10	27	98	38	8	40	73.1%
	11	55	116	21	3	17	87.7%
	12	95	94	8	2	13	95.0%
	13	58	104	30	8	12	81.0%

4. 教職員による学校評価

○評価指標と全体のデータ

No	大分類	評価項目	観点	評価指標	No	
1	教育活動	教育振興プログラム		教育振興プログラムに係る使命の達成に向けて学校全体として取り組んでいる。	1	
2		教育課程	編成	学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。	2	
3			取組	学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。	3	
4		教科指導	指導計画	指導計画	学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。	4
5				取組	私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。	5
6			評価評定	評価評定	私の所属している教科は、観点別評価規準を明確にした年間計画を	6

				立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。		
7	特別活動 部活動	取組		生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。	7	
8	ホームルーム活動			人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送る基礎的な生活集団の形成に資するホームルーム経営を行うことができている。	8	
9	生徒指導			生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行うことができている。	9	
10	進路指導			生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切に取り組んでいる。	10	
11	保健指導			学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。	11	
12	環境美化			資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。	12	
13	学校 経営	学校教育目標		学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。	13	
14		学校経営方針		学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。	14	
15		職員組織 (校務分掌も含む)		一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織となっている。	15	
16		年次経営		各年次の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。	16	
17		職員会議等		会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。	17	
18		研究・研修		教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。	18	
19		学校経理	予算編成		予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。	19
20			会計報告		公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を十分に果たしている。	20
21		学校施設設備			教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。	21
22		情報管理			個人情報等の管理及び活用が適切である。	22
23	保護者・ 地域等との 連携協力	PTA活動		P T A 活動が十分保護者に理解され円滑に運営されている。	23	
24		地域等との 連携 協力		学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。	24	
25	危機管理	安全対策		学校安全計画に沿って適正に実施されている。	25	
26		防災対策		学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。	26	
27	情報公開			募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動に積極的に取り組んでいる。	27	

○ 職員 教育活動に関して

問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1	6	11	10	14	18	16	18	13	10	15	18	12	9
2	41	42	43	40	39	37	35	41	41	38	38	39	42
3	10	5	6	5	2	5	7	5	8	6	4	8	6
4	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	3
5	2	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0
割合	78.3%	88.3%	88.3%	90.0%	95.0%	88.3%	88.3%	90.0%	85.0%	88.3%	93.3%	85.0%	85.0%

○ 職員 学校経営に関して

問	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
1	10	7	14	9	7	14	22	11	12	15	11	11	14	15
2	36	30	37	33	30	40	35	41	44	40	41	41	41	41
3	9	20	6	14	21	6	3	7	3	3	5	6	3	3
4	3	2	1	4	2	0	0	1	1	1	2	1	2	1
5	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
割合	78.0%	61.7%	85.0%	70.0%	61.7%	90.0%	95.0%	86.7%	93.3%	91.7%	86.7%	86.7%	91.7%	93.3%

5. 地域による学校評価

近隣の幼稚園・保育園の保護者に依頼し、協力して頂ける家庭に提出して頂いた。

項目	No.	評価指標						割合
			そう 思う	ややそ う思う	あまり そう思 わない	そう思 わない	わから ない	
教育活動	1	学校は地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	21	5	0	0	8	100.0%
	2	学校は文化祭等の学校行事を通して、地域から信頼される学校を目指している。	25	4	0	0	5	100.0%
生徒の様子	3	学校生活が楽しそうで、生き生きとしている様子の生徒が多く見られる。	23	8	0	0	3	100.0%
	4	生徒は登下校の際のマナーが身に付いている。	7	19	5	0	3	83.9%
	5	生徒は近隣に迷惑にならないような行動を心がけている。	9	18	2	0	5	93.1%
地域貢献等	6	学校は地域の活動や行事によく協力している。	23	6	1	1	3	93.5%
	7	学校は校舎・グラウンド等の近隣に接している所も清掃し、環境美化に努めている。	15	8	0	0	11	100.0%
	8	生徒は社会貢献（地域清掃や地域のボランティア等の取組）の活動により地域に貢献している。	20	7	1	0	6	96.4%
	9	学校は地域に向けて学校情報の提供をしている。	14	12	0	0	8	100.0%

平成 2 5 年度

横浜市立高等学校
及び
南高等学校附属中学校

学校関係者評価書

対象校：横浜市立南高等学校
南高等学校附属中学校

調査日：平成25年10月1日～平成26年3月31日

調査対象校：横浜市立南高等学校

調査チーム：横浜市立南高等学校・附属中学校 学校運営協議会

リーダー： 坂野 慎二 (玉川大学大学院 教授)
高森 政雄 (港南区連合町内会長連絡協議会会長)
石川 直弘 (同窓会会長)
北崎 熙 (後援会会長)
大越 雅也 (PTA会長)
今関 裕美子 (PTA副会長)
織茂 篤史 (元横浜市立学校 校長、桐蔭学園嘱託)
高木 展郎 (横浜国立大学 教授)
田澤 慶暁 (元明治大学附属中野・八王子中学校・高等学校 常勤理事)
野木 秀子 (元横浜市教育委員)
春口 廣 (関東学院大学 教授)
鈴木 英夫 (南高等学校 校長)
高橋 正尚 (南高等学校附属中学校 校長)
吉田 信幸 (南高等学校 校長代理)

記録等担当者 花房 勉 (学校評価部会・事務局)
増田 亨 (学校評価部会・事務局)

学校関係者評価委員からの意見や指摘内容

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

- ・学校広報に関する方法を改善すべきである。学校は何をやるか、でなくて学校は何をやったかが広報である。南高校のプラスイメージを作る。ニュースソースを作る。
- ・今の中学生へのアピールを考える必要がある。高校生が中学生向けの情報発信が役に立つ。
- ・南高に愛着を持っている地元の人々が多い。
- ・高校生の頃からITに触れる必要がある。日本のIT教育は遅れている。ITに興味を持つ仕掛けが必要である。スマートフォンを使いこなす知識も必要である。
- ・適性検査についての課題、教員の仕事量に課題がある。
- ・ホームページの利用方法。生徒の声を載せた方が効果がある。見ておもしろい興味を持てる内容が大切である。
- ・スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けて欲しい。
- ・グローバル化については横浜国大、JICAとどのように連携できるか検討している。
- ・これからの南高に残したいものは何か、南高の良さは何か、現高校生から聞き取るべきである。
- ・インターネットを利用して情報の発信はできる。ネットを手段として授業内容を発信することができる。
- ・小中高交流について推進して欲しい。
- ・親が知りたいことがすべて発信されていない。情報発信をもっとすべきである。

2 教育活動の状況

■教育課程の状況について

- ・文武両道、ガリガリでない幅広い人間の育成は良い傾向である。今の生徒が良くなるといってよい。
- ・何をどうやって教えるか。シラバスの作成をして学習させる。高校生自身の時間管理について。これができれば学力が伸びる。

■教科指導の状況について

- ・スピード感のある授業をしていかなければならない。授業改善に努力してほしい。
- ・中1から高校まで指導できる教育体制が必要である。
- ・授業力向上が課題である。市立高校の合同で授業のあり方の研究をすべきではないか。進学校向けの授業のあり方の研究をすべきだ。授業が上手くできないと、予備校に頼ることになる。
- ・現状ではなくて特色である。授業力の向上のために何をするのか。学校力を高めて欲しい。

■特別活動・部活動の状況について

- ・部活動について、部活動より勉強を優先すべきである。
- ・学習と特別活動を両立させるようにして欲しい。
- ・学校行事の精選する必要がある。6年間の内5年間まででいいのではないか。
- ・ある私学では部活動は高校2年まで、学校行事は3年生までになっているという。
- ・EGGの高校版を作りたい。

■生徒指導・教育相談の状況について

- ・生徒自身で時間の管理ができないと、学校生活本来の目的を見失ってしまう。
- ・中学校では週プランを立てたて2年生までにしっかり身に付ける指導をしている。この生徒が高校になれば、時間の自己管理はできるから上手くいくと思います。
- ・現高校生の自己実現状況や学習進捗状況の具体的な基礎データを提示して欲しい。

■進路指導の状況について

- ・モチベーションを上げていく必要がある。今の高校生も力を入れれば良い結果がでるのでは
ないか。
- ・生徒の時間の使い方。生徒の自己管理ができるか。自ら勉強する仕掛けをする必要がある。自分たちの自己実現を図るためにはどうしたら良いか考えさせることができれば良い。
- ・推薦で進学をした生徒が何人いたか知りたい。推薦を理由に勉強を諦めている生徒がいる。頑張ればもっと良い結果がでる。
- ・推薦であってもセンター試験を受ける。勉強をやり遂げる力をつけてほしい。
- ・学年生徒数が減少すると、大学進学実績が下がったように見える。それを防ぐためには、南高に入学したときの学力と大学進学実績を比較して、学力伸張の推移を示すべきである。南高に入学すると学力が伸びるということを情報提供する必要がある。に、その生徒にあった形の進路実現を図って欲しい。
- ・高校受験は現高校生の姿を見て志願先を決めるので現高校生の進学状況を向上させる必要がある。

3 学校経営の状況

■教育目標の設定・実施状況について

- ・教育活動の重点について具体的に取り組んで欲しい。あいさつの励行は大切である。先生が挨拶をしていない。
- ・食育を推進は大切である。目標、重点に実現に向けて具体的な取組を上げて実践する必要がある。

■組織運営及び教職員研修の状況について

- ・高校の先生方が優秀な生徒に対応できる授業力を付ける必要がある。
- ・先生の身分の問題。高校の先生の質的な向上が必要である。
- ・兼務辞令の件。高校の職員への兼務辞令は出ている。中から高の兼務辞令が出ると良くなると思うが、解決には時間がかかるようである。
- ・教員は休みが取れていない状況である。学校説明会が始まるとますますハードな勤務状況になっている。夏季休業中に休みを取るよう工夫している。
- ・高校教員には中学校の兼務辞令が出ているので中学の授業、部活動指導ができるが、中学校の教員に兼務辞令がないので高校生の指導ができない。6年間継続して生徒をみることができるよう制度改革を望まれる。
- ・附属中学校の授業ではこれからの時代に求められている、「考える学力の向上」は行われている。今からでも、高等学校教員の意識改革が求められている。言語活動を取り入れた新しい授業に取り組んでいく必要がある。南高は新しい授業を始めていることをピーアールする必要がある。観点別評価を取り入れるなど発想の転換をすべきである。